
当科の高齢者にも安全かつ効果的な鼠径ヘルニア修復術 (TEP 法) ：単孔式低侵襲手術の探求

今井 義朗、北田 和也、鈴木 悠介、朝隈 光弘、富山 英紀、
李 相雄 (大阪医科薬科大学病院 一般・消化器・小児外科)

【背景】 高齢化社会を迎えていますが、高齢者は筋力低下が不可避な現象であるため鼠径ヘルニアの患者数が近年増加しています。鼠径ヘルニアは、立位や歩行時に鼠径部が膨隆するため、日常生活に支障をきたします。高齢者が健康な日常生活を送るためにも手術が必要です。しかし高齢者の多くは基礎疾患を抱えているため、より安全な手術が求められます。

【機能改善班】 このような背景から、当科では 2023 年 4 月より鼠径ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニアや直腸脱など身体機能の改善を目指した機能改善班という新しい診療班を立ち上げ、胆石や高度肥満も含めた良性疾患の手術を行っています。

【単孔式ヘルニア修復術】 当科は 2009 年より 1 カ所の傷のみで行う単孔式手術を導入しています。蓄積された技術を、腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TEP 法) にも導入しました。同時期に、当科主導で単孔式の新しいポートである Dome Port が開発され、更に安全な手術が可能となりました。今回は動画を交えて手術手技と短期成績を報告します。

【手術手技と短期成績】 我々が採用している TEP 法は、腹膜外腔アプローチであり、腹腔内の操作を必要としません。すなわち腸管損傷や腸閉塞のリスクがなく、僅か 1.5cm の傷のみで行います。お腹にも優しく痛みも少ない究極の低侵襲手術と考えられます。同創部で両側手術も可能で、患者の満足度も高いです。2023 年 4 月から 2024 年 4 月まで 140 例施行しました。年齢は 74 ± 12.4 、80 歳以上の高齢者は 30 名 (21%) でした。男/女:120/20、部位:右/左/両:59/48/33 でした。手術時間は 71.2 ± 43.2 分、出血少量でした。血腫、漿液腫それぞれ 2 例ずつ認めましたが保存的加療で軽快しました。全例術後 2 日目には退院しました。

【まとめ】 単孔式 TEP は安全に施行可能であった。今後も安心安全な低侵襲手術を探求していきます。